

## 基地対策特別委員会 行政視察報告書

1. 実施日 令和5年10月6日（金）

2. 視察地及び視察テーマ

航空自衛隊横田基地（福生市大字福生2552）

「航空自衛隊横田基地の活動状況の調査について」

3. 視察者

基地対策特別委員会 委員長 門間 淑子  
副委員長 櫻沢 裕人  
委員 高田 和登 富松 崇 中嶋 勝  
鈴木 拓也 山崎 陽一 馳平 耕三  
石居 尚郎

4. 視察報告（適宜 撮影した写真・配布資料のデータ等を添付してください。）

航空自衛隊横田基地（福生市大字福生2552）

「航空自衛隊横田基地の活動状況の調査について」

視察日時	令和5年10月6日（金）午前10時～12時30分
視察先	航空自衛隊横田基地 視察先担当者職氏名 作戦システム運用隊司令兼ねて横田基地司令 1等空佐 石井 浩之 氏
<b>【航空自衛隊横田基地の概要】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・面積：約13万8千平方メートル</li><li>・人員：約1000人（内、女性は約100人）</li><li>・位置：福生市大字福生2552</li><li>・沿革：平成18年 航空自衛隊航空総隊司令部等の府中基地から横田基地への移転決定 平成24年 移転完了 現在に至る</li><li>・基地所在部隊：航空総隊司令部、航空戦術教導団司令部、作戦情報隊、作戦システム運用隊、 横田気象隊、横田地方警務隊</li><li>・特徴：防衛の航空作戦の中核を担う航空総隊司令部をはじめとした各部隊と米軍の部隊等が緊密に協力しながら相互運用の能力向上に努める、日米連携の要の基地である。</li></ul>	

**【視察目的】**

航空自衛隊横田基地を視察し、情報・意見の交換を通して現状と課題を委員間で共有し、今後の委員会活動に反映させるため。

**【視察概要（内容）】**

（視察の流れ）

航空自衛隊横田基地に関する説明

質疑応答

展示機の紹介

基地内車窓見学

（航空自衛隊横田基地に関する説明）

- ・府中基地から横田基地への移転について

防空・弾道ミサイル防衛（BMD）への対処可能時間は極めて短いことや、日米の相互運用性の向上が必要であったことなどから、防空・弾道ミサイル防衛に対応する日米の司令部を横田基地に集約し、日米の連携を強化した。

航空自衛隊横田基地には航空総隊司令官が作戦を遂行するための機能を集約している。弾道ミサイル防衛では、航空総隊司令官が海上自衛隊の一部の部隊も含めて指揮する。

- ・平時の任務について

弾道ミサイルへの警戒や他国機の領空への接近に対する自衛隊機の緊急発進（スクランブル）等がある。緊急発進は令和4年度に778回実施した。

- ・日米の連携について

横田基地内の航空自衛隊と米軍は日頃から共同訓練や文化交流を積極的に行っており、円滑なコミュニケーションを実現している。

（例）滑走路被害復旧、消防、輸送補給業務、クリスマス、餅つき、節分、セレブレイト・アメリカ、観桜会、日米友好祭 など

- ・周辺地域との連携について

地域の様々な行事に参加し、交流を図っている。

（例）防災訓練、新年互例会、みずほサマーフェスティバル、フェンスラインクリーンアップ（清掃活動） など

地産地消に努めており、隊員の食事に周辺地域の食材を使用している。

（例）羽村市産のさつまいもを使用した甘煮

学生向けの職場体験や一般の基地見学を実施している。

(質疑応答)

<問>自衛隊機が横田基地を利用する際は米軍の許可が必要か。

<答>米軍と事前に調整して航空機を離着陸させる。

<問>自衛隊員やその家族は基地内に住んでいるのか。子供が通う学校は。

<答>一部の隊員は基地内に住んでいる。役職等により基地内に住まなければいけない隊員もいる。基地外に住む場合も距離的な制限などがある。子供は周辺地域の学校に通う。

<問>航空自衛隊が横田基地に移転する際の、施設の確保の経緯は。

<答>横田基地への移転の決定後、まずは基地をどのように使用するか、必要な施設をどこに配置するかなどを米軍と協議した。米軍の施設が機能別に配置されていることも考慮しつつ、米軍との調整の上航空自衛隊の施設を配置した。

<問>緊急発進はどの基地から発進するのか。

<答>緊急発進は、他国機の位置等を考慮して4つの航空方面隊(北部・中部・西部・南西)のいずれかが行う。他国機が長距離・広範囲に移動する場合は、方面隊同士が連携して交代で対応する。近年は大陸側から沖縄本島と宮古島間を抜けて太平洋側に出る傾向がある。

<問>自衛隊の定年退職は早いと聞くがどうか。

<答>近年は定年退職の年齢が引きあがっている。階級によって定年退職の年齢が異なるが、例えば1佐は55歳から57歳に引きあがっている。60歳未満のいわゆる若年定年退職者が再就職先を探す際は、組織で支援している。

<問>やめる隊員が多いと聞くがどうか。

<答>確かに依願退職する隊員は存在する。任期制の隊員においては任期満了で継続しない隊員もいる。定年退職者と同様、任期満了の退職者については再就職の支援をしている。

<問>横田基地に出入りについて、日本側に管理の権限はないのか。

<答>航空自衛隊横田基地は、日米地位協定に基づき、米軍の一部施設・区域を臨時的に使用する形態をとっている。したがって、基地の警備や管理は米軍が行っている。

<問>施設の責任分担はどうなっているか。

<答>基地内の施設はそれぞれが責任をもって管理している。

(展示機紹介)

航空自衛隊の施設の付近に展示されている航空機「F-1」と「F-86」を見学した。

F-1：戦後初の国産ジェット戦闘機。

F-86：アメリカ製戦闘機。航空自衛隊でも運用していた時期があり、1964年の東京オリンピックで五輪の輪を空に描いたことで有名。

(基地内車窓見学)

横田基地内をバスに乗車したまま見学した。

## 【所感】

これまで基地対策特別委員会では、横田基地に係る民生安定対策や基地に起因する諸問題の解決を図ることを目的として、基地に係る調査を実施してきました。

平成24年には、航空自衛隊航空総隊司令部などが府中基地から横田基地へ移転しました。これにより横田基地は、日米の連携による防衛能力の向上や航空自衛隊の司令部としての機能を担うことになり、日米双方にとってより重要な拠点となりました。

そこで、当委員会は航空自衛隊横田基地に関する現状と課題を委員間で共有し、今後の委員会活動に反映させるため、初めて航空自衛隊横田基地を視察することにしました。

航空自衛隊航空総隊司令部は在日米軍の司令部と隣接するように設置されており、平時から「Face to face」によるコミュニケーションを行うことで日米の連携を強化していました。防空や弾道ミサイル防衛においては一分一秒を争う迅速な判断が求められることから、有事の際に日米が連携して迅速に作戦を遂行できる現在の体制は大きな強みであることがわかりました。

航空自衛隊は周辺地域との交流や自衛隊への理解を深めてもらうための活動を積極的に行っていました。防災訓練や祭りなどへの参加に加え、地産地消を積極的に行っており、目に見える形で周辺地域に貢献していました。

航空自衛隊横田基地は司令部としての機能が主であるため、戦闘機などが配備されておらず、周辺地域への騒音の主要因ではないことがわかりました。

日本を取り巻く国際情勢は不安定さを増しており、国は防衛予算を増加させ自国防衛に注力しています。そのような状況のなか、日米が一つの域内で活動する数少ない基地である横田基地は、日米連携の要としての機能を果たしています。日々の緊急発進や周辺国の弾道ミサイルへの対応など、プレッシャーを感じない日はなく大変忙しいなかで視察を受け入れてくださった航空自衛隊横田基地の皆様と、自国防衛のために全力を尽くす自衛隊の皆様に感謝を申し上げ、行政視察の報告とします。

添付資料（写真・資料等）※任意（本文中に貼付していただいても結構です。）



航空自衛隊横田基地と展示されているF-1の前で写真撮影。横田基地内は指定された場所以外での写真撮影は認められない。

（前列右から2番目は石井1等空佐、他は基地対策特別委員会委員）

-----  
-----  
-----  
-----  
-----  
-----  
-----  
-----  
-----  
-----

-----  
-----  
-----  
-----  
-----  
-----  
-----  
-----  
-----  
-----